

極端な気候への対応

株式会社榎戸材木店

会長 榎戸 正人

今回は災害の話なので写真は無し。インターネットを調べれば様々な災害の写真はありますが、著作権の問題もあり、悲惨な写真を掲載することには躊躇します。この原稿を書いている最中にもネパールで大規模な土石流が発生し、日本人観光客を含め多くの方々が行方不明になっています。あの地域は以前から上流に氷河が溶け出した水が大量に溜まった湖があり、決壊したら大きな被害が出ると言われていたのに、何の警告もなかったようです。

世界を見回すと、ヨーロッパでは異常な暑さが続き、多くの方が熱中症で亡くなっています。干ばつと猛暑で山火事も多数発生していますが、北米でもカナダのBC州からアメリカのカリフォルニア州にかけては山火事が多発しています。ヨーロッパのスペインやフランスの南部、イタリアはブドウやオリーブの産地で多くの木が枯れてオリーブオイルやワインの生産に支障が出ていますが、アメリカのカリフォルニア州もワインの産地として知られています。世界的に今まで採れていた農産物の収穫が減り、食料自給率にも問題が生じるのではと懸念されています。

日本でも従来、美味しいコメの産地として知られていた新潟、秋田は地球温暖化の影響で今までの品種の栽培が難しくなり、温暖化に強い品種への転換が勧められています。逆に北海道は今まで美味しいコメは採れないとされていたのが、今では日本で最も美味しいコメが採れる産地となっています。

新潟や秋田ではコシヒカリ、アキタコマチという美味しい品種にこだわる農家も多いのですが、これらは暑さに弱いので、味を取るか収穫量を取るかで悩んでいるようです。昨年のコメ不足の影響で今年は耕作面積が増え、皮肉なことにコメ余りによる価格の暴落が心配されています。採算が取れないと嘆く農家が増え、来年は収穫量は減りそうです。

需要と供給の両面を読み誤ったのがコメ不足の原因なのに、政府は「需要に見合った供給を」などと言っています。どんな産業でも需要を正確に掴むことは困難で生産調整が行われますが、数カ月で調整できる工業製品と異なり農産物は調整するのに1年間掛かりますので、それこそ生成AIを使って、より確に需要予測をする必要があります。

林業に至っては生産調整には何十年も掛かりますが、幸いなことに供給過剰で価格が下がったら伐採量を減らして調整できるので、農産物のように嫌でも収穫しなくてはならないものに比べれば調整は楽だといえます。ただし、国有林は需給に関係なく計画優先で伐採されるので、価格の低迷の原因となるのですが……

少雨の干ばつに見舞われる地域があるかと思うと、一方では線状降水帯の発生で大雨被害に見舞われる地域も各地に出ています。千葉県でも記録的な豪雨で大きな被害が出ましたが、不思議なことに浦安市は大雨特別警報の範囲外で、大きな被害はありませんでした。旧市街地はゼロメートル、マイナスメートル地域が多いので、豪雨に見舞われたら確実に浸水被害が起こります。埋立地で山や丘がないので、土砂崩れの心配はありませんが。

長い目で見れば、この極端な気候の中で、断熱性能だけではなく水害に強い家造りも必要になるでしょう。浦安市で最近建てられている家は基礎の高さが以前より高くなっており、床上浸水を防ぐ設計になっています。確認申請の基準が変わったのでしょうか。

山に植える木も、これからはスギ、ヒノキではなく、フタバガキ科のラワンになるのかも。我が家の家庭菜園も熱帯植物を植えようかと考えています。ドラゴンフルーツは採れるか？